



令和3年度の終わりにあたって

山梨県総合教育センター 所長 安達 徹

総合教育センターでは、令和3年度、150の研修会を開催し、延べ1万人を超える先生方に受講していただきました。コロナ禍で学校現場がたいへんお忙しい中にもかかわらず、多くの先生方が積極的に研修に取り組んでいただいたことに心より感謝いたします。研修会に参加されている先生方の真剣な表情を拝見しながら、今後も、より充実した研修、先生方の実践に役立つ研修を提供していかなければとの思いを強くしているところです。

いうまでもなく、教員は学校現場において様々な経験を積み、子供たちと対面しながら日々悩むことで成長していくのだと思います。教員としての経験則が、日々の教育実践や、様々な事案に直面したときの判断の根拠になるのだとも思います。

しかし、その一方で、近年は、経験則だけでは対応できないことが増えてきたことも確かです。例えば、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、ICTを活用した授業づくり等によって、従来の知識教授型の授業は一変し、授業における教師の役割も大きく変わっていくのだらうと思います。子供たち一人一人の多様な在り方に向き合いながら、教育の個別最適化を進めていくために、私たち教員は、これまでの教育実践では経験したことのない対応を求められることにもなるでしょう。

そのような、これからの日々の教育実践に必要な対応力を身につける機会として、総合教育センターの研修会を活用していただきたいと思います。学校現場での経験によって身につけた教師としての知見と、研修会によって得られた新しい教育課題への対応力が融合することで、これからの時代に持続的に適応できる教師力を身につけることができるのだと思います。

また、総合教育センターでは、学校単位での教育課題への取組を支援するために、センター研究を通じて、研究協力校の校内研究の支援を行っています。各校での主体的な研究を支援して、先生方一人一人が授業づくりや学級づくりの力を高めていけるような取組を行っています。さらに、全国学力・学習状況調査等の結果分析を踏まえた授業改善リーフレットを作成するなど、先生方の経験則にプラスしていただく様々な素材、明日の実践に生かせるツールを提供するべく、センターを挙げての研究にも取り組んでいます。その成果は、2月の研究大会でもお伝えしましたが、センターホームページに掲載しておりますので、是非とも御覧ください。

総合教育センターは、学校現場の先生方の日々の実践の拠り所となり、実践の後押しをし、さらに進むべき方向を照らし出す、そのような存在となることを目指して、全所員一丸となって取り組んでまいります。今後とも、御理解と御協力をお願いいたします。

「山梨県総合教育センター研究大会」を終えて

令和4年2月22日、「新たな時代に対応する学校教育への総合的な支援～求められる資質・能力の育成に向けた実践的指導の在り方～」をテーマに「山梨県総合教育センター研究大会」を開催いたしました。

今年度も、昨年度と同様にオンラインでの開催とさせていただきますが、今年度は各研究チームによる研究発表と、ブレイクアウトルームに分かれてのグループ協議も実施いたしました。新型コロナウイルス感染症への対応等で大変御多忙の中、県内250か所以上からオンラインによる御参加をいただき、大会を開催することができましたことに心より感謝申し上げます。

各研究協力校におかれましては、新型コロナウイルス感染症と向き合いながらも、子供たちの学びに全力で向き合い、校内研究及び本センター研究を推進していただきました。本大会において発表させていただいた各学校の研究内容や具体的教育実践例は、今後も様々な形で発信して参りたいと思います。

今後も、本センターでは「教育研究、学校支援、教育情報収集・提供」の機能連携による「知の拠点」としてのシンクタンク機能の更なる充実を図り、本県学校教育の振興と充実に寄与できるよう、研究を進めて参ります。今後とも御理解御協力をお願いいたします。

研修指導課

令和時代の「新たなやまなし教育」を支える ～学び続ける教師のために～

令和2年に国内外で急速に感染拡大した新型コロナウイルス感染症は、いまだ終息に至らず、社会生活、学校現場においても様々な変化と対応が求められています。

中央教育審議会からは2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」が公表され、感染症対策等により前倒し実施となった「GIGAスクール構想」の実現に向けた取組の中、遠隔・オンライン教育などICTを活用した授業づくり等の充実が求められた1年でした。

研修指導課においては「学び続ける教師のために」をテーマに、受講機会の確保と安心安全な研修の実施を念頭に置き、「やまなし教員等育成指標」に基づいて体系化された150の研修会を実施してまいりました。

本年度は、学校内外での通信機器等の環境整備が加速し、児童生徒のICT活用を指導支援するための研修が数多く行われました。感染症が再拡大した夏期研修会期間においては、参集を取りやめ、オンライン・オンデマンド研修に切り換えることとなりましたが、この取組が、今後の学校現場における遠隔・オンライン授業等の実施・検証に繋がってくれることを期待しています。

ウイズコロナ、その後のポストコロナ社会を予見する中、令和の時代をたくましく生き抜く子供たちとその未来のために、学び続ける教員の資質能力を育むことを目途として、これからも「有用感が持てる研修会」を企画・実施していきます。

来たる令和4年度、本センター研修会への積極的な参加をお待ちしています。

調査研究課

今年度も、新型コロナウイルス感染症と向かい合う中ではありましたが、学校現場のニーズに応えられるよう、様々な工夫を行いながら各種調査・研究・情報収集と発信を行ってきました。

2年ぶりの実施となった各種学力調査に関連しては、採点講習会や授業改善説明会をオンラインで実施するとともに、授業改善のポイント資料や授業改善のための説明動画を作成し、全県下に向けて情報発信と授業改善に向けた取組を進めました。

研究においては「授業づくり・学校づくり、情報教育、教育相談、特別支援教育」の4つの領域ごとに全指導主事がチームを組み、研究協力校と連携し実践的な学校支援につながる研究を進め、指導主事としての専門性を高めながら、学校訪問での指導助言、研修会の企画、講義や演習の充実に結び付く研究とすることができました。研究を進めるにあたっては、山梨大学教育実践総合センターやデータ分析ワーキンググループと連携を図ることで、指導案検討や拡大校内研での助言等、随所に指導主事を支援していただきました。

今後も、本センターが、山梨教育の「知の拠点」としてシンクタンク機能を活用させ、「主体的・対話的で深い学び」の具現化等、教育課題の解決に向けて、授業改善の方向性や指導モデルの提示等ができるよう、さらに実践的な校内研究支援に取り組んでいきます。



研究協力校における拡大校内研究会



グループワーク研修会



各種資料（HPよりDLできます。）

相談支援部

児童生徒、保護者、教職員に寄り添う相談、支援の充実を目指して

○コロナ禍でも充実した教育相談

- ・いじめ・不登校ホットラインによる「電話相談」（365日24時間体制で対応）の充実に取り組みました。
- ・安心して面接相談が行うことができるように、感染防止策の徹底をはじめとする環境整備を行いました。
- ・不登校支援、就学支援等、幼児、児童生徒、保護者、教職員のニーズにこたえられるような面接相談の実現に取り組みました。

○センター研究の充実

- ・教育相談チームでは、竜王北中学校を研究協力校とし「センターのシンクタンク機能を活用した学級集団づくり」、特別支援教育チームでは、長坂小学校を研究協力校とし「発達特性に応じた指導方法に関する研究」、適応指導教室チームでは、「教育支援センターのよりよい在り方」をそれぞれの研究テーマとして取り組み、多くの成果を得ることができました。

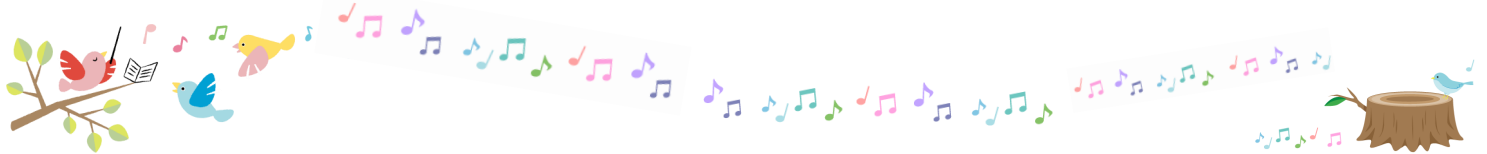
○学校への支援の充実

- ・SOSの出し方に関する教育や、不登校児童生徒への対応など、教職員の研修等への支援に取り組みました。
- ・教育支援アドバイザー等の学校訪問を通して、学校支援に取り組みました。

○不登校児童生徒への支援の充実

- ・石和こすもす教室では、感染症拡大防止策を講じ、新しい生活様式を踏まえた教室運営をしてきました。不登校が続いている児童生徒の心の居場所づくりを基本に、自立に向けた適応指導と学習指導を行いました。随時、保護者や教職員からの相談にも応じました。
- ・石和こすもす教室は、本年度をもって閉室となります。

来年度は、「相談支援センター」として、山梨県の児童生徒、保護者に寄り添い、教職員や学校関係者の力となる相談支援体制を構築していきます。



情報教育部

◇ICT活用指導力向上への取り組み

情報教育部では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICTの効果的な活用とICT活用指導力向上を目的とした研修会を、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも13講座開催し、延べ403名が受講しました。また、オンラインの活用推進に向け、各種マニュアル作りやハイブリッド授業実践報告会等も開催いたしました。さらに、センターホームページ内に「ICT利活用推進」のページを新たに作成し、活用方法に関する情報や実践をまとめて発信しております。来年度も、ICT活用指導力向上に資する研修会の開催とともに、全国の動向や最新機器の活用等の情報収集及び発信に努め、ICT活用の普及啓発に努めてまいります。

◆やまなしラーニング（YeL）の充実

YeLの運用では、広報活動の促進、研修内容とコンテンツの関係性の強化、自主研修や校内研修に活用できるコンテンツの増設、ICT活用実践事例の収集及び発信等に取り組み、さらなる研修の充実と効率化、利便性の改善を行っています。今後もICT利活用の利点を最大限生かすための工夫改善を図っていきたくと考えております。

◇センター研究：情報教育に関する研究

情報教育に関するセンター研究では、研究協力校である島田小学校の協力を得ながら「学校における教育の情報化に向けた支援の在り方」について研究を進めてまいりました。過日行われましたセンター研究大会では、その成果と課題を発表いたしました。現在、令和4年度研究推進校を募集しております。

◆学校の情報化推進のための基盤整備と支援

教育情報ネットワーク、校務処理システム、旅費・休暇システム等の運用管理や、これらを各学校で担当するPCリーダーを対象とした研修会の実施、情報教育に関する相談業務を通して、業務の効率化と教育の情報化を支援しています。また、ハイユースPC等の運用支援およびネットワークシステムの運用支援も行っていますので、御不明な点はお気軽に御相談ください。

「研究大会特別講演（特別研修会Ⅱ）」

山梨大学 理事・副学長 中村和彦氏による「特別講演」を、「子供たちに寄り添う学校教育の在り方」と題し、配信により開催いたしました。

講演の中で、中村先生は、子供たちに寄り添う教育には、「おもしろく・のめり込む遊び」「深く考え判断する学び」「科学的認識を体験する学び」「人に優しい気持ちを持ちながらの生活」「魂の震えと同調を感じる体験」の5つの観点を学校・家庭・地域が協働して実践していくことが必要であると話されました。特に最後の観点である「魂の震えと同調を感じる体験」については、遊びや学びの中で人間関係を構築しにくい現代の子供たちに、私たち教員は、そういった体験の必要性を意識した教育活動を行っていくことが、「子供たちに寄り添う学校教育」につながるのだということをお教えいただきました。



留学生の声

1年間の研修を終えて

令和3年度一般留学生 橋田 小百合

この1年間、かねてから学びたいと思っていた道德の研究に専念できる恵まれた環境を与えていただきました。私の研究テーマである「考え、議論する道德」について、初めは疑問だらけの毎日でしたが、様々な先行研究から学びながら、研究の方向性を組み立て、実践授業を通して仮説を検証し、研究を深めることができたこの1年は、私の教員人生にとって大きな財産となりました。さらに、今日的な教育課題に関するセンターの先生方の専門的な講話では、今後現場で生かしたいと思うヒントをたくさん学び得ることができました。今回の研究や研修を通して学んだことを糧に、今後も更に研鑽を積みながら、子どもたちや学校現場に少しでも還元できるよう努めてまいります。最後に、温かく御指導いただいた指導主事の先生方、研究協力員の先生方、研究協力校の先生方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ICT利活用推進のページ 新設ご案内

山梨県総合教育センターHP (<http://www.ypec.ed.jp/htdocs/>)に、「ICT利活用推進」のページを作成しました。県内外の様々なICTの効果的な活用方法に関する情報や実践がまとめてあります。これから随時更新していきますので、各校の校内研や自主研修にぜひ御活用ください。



令和4年度研修会申込手続きについて

令和4年度研修会申込事務説明会

日時：令和4年4月7日（木） 受付 13:20～13:40

説明会 13:40～16:40

場所：山梨県総合教育センター 大研修室 第3研修室 第4研修室

各校の研究主任（研修担当）の先生方を対象に、令和4年度に行う研修会の申込の方法等について説明を行います。

【注意】新型コロナウイルス感染症対策のため、実施方法の変更等も考えられます。

その場合は、本センターホームページにて連絡しますので、御確認ください。



編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 安達 徹
発行日 令和4年3月18日